



がん予防授業で学ぶ

沖縄市の宮里中

日本人の2人に1人がかかり、3人に1人が死亡するがん。国民病とも言われるが、学校で学ぶ機会は限られている。生活習慣を見直し、健康や命の大切さを知ってもらおうと、沖縄市の宮里中学校で16日、がん教育の授業があった。

健康の大切さ 意見交換

2012年に閣議決定された「がん対策推進基本計画」は、がんそのものや、がん患者に対する理解を深める教育は「不十分」と指摘し、5年以内に学校教育のあり方を含めて検討し実行に移すの目標を掲げた。これを受け、文部科学省も学校でのがん教育に力を入れ始めている。

宮里中のがん教育は、健康な生活と疾病の予防について学ぶ計10時間の単元の一環。琉球大医学部付属病院がんセンターなどの協力も得て、生徒たちはがんから身を守るための知識や方法を学んだり、資料で調べたことを新聞形式にまとめた。授業の担当は、県外の研究会に参加するなど、がん教育のあり方を研究している保健体育の花木瑠実教諭。3年生2クラスの女子生徒約40人を前に、「がん」と向き合う」とのテーマで授業を進めた。

がん予防について意見を交わす生徒ら

16日、沖縄市・宮里中学校

生徒たちはグループに分かれ、がん予防のために自分のできることを話し合った。発表では「たばこを吸わない」「適度な運動をする」などの対策や「飲酒カレンダーを付ける」「がんをひどくしたらと思わないこと」などさまざまな意見や提言が出た。

クラスが静まりかえったのは、乳がんで闘病中のフリーアナウンサー、小林麻央さんがブログに書き込んだ「奇跡を起こしたい」との文面が紹介された時。花木先生が「がんはだれにでも起こりえます。身近な人を思い浮かべて、メッセージを書いて」と呼び掛けると、生徒たちは家族に向けて「幼稚園の時に手紙でお願いしたら禁煙してくれましたね」「子どもの高校受験を心配するくらいなら自分のことも心配して」などと、それぞれの思いをカードに記入した。

女子生徒の一人は「母が一度がんになったので怖さは知っていますつもりだったけど、いつ自分もかかるか分からないと改めて思った」と授業の感想を述べていた。

郵便物認可

第24356号 (日刊)



2016年11月30日 水曜日
(平成28年) 【旧11月2日・赤口】

発行所 那覇市久茂地2丁目2番2号
(郵便番号900-8678) 沖縄タイムス社
私書箱 那覇中央郵便局293号©沖縄タイムス社 2016年